



エコアクション21
認証・登録番号0006924

環境活動レポート

平成26年度
(平成25年10月～平成26年9月)



某工業大学 小型風力発電機（Kharos）設置工事



平成27年 1月23日
木下緑化建設株式会社

ごあいさつ

木下緑化建設株式会社は、個人創業から数え50年以上の業歴を持ち、これまで公共事業を中心に多くの公園の施工や維持管理を行ってまいりました。近年では、環境への関心の高まりから生物生息域を確保するための緑化・維持管理手法や省資源につながる緑化手法、また植物廃材のリサイクル事業に取り組み、事業形態自体の循環型を目指しています。

さらに、屋上緑化・壁面緑化といった特殊緑化技術にも豊富な経験と実績を有します。環境に配慮した緑化空間を数多く施工しています。また、指定管理業務においても、福岡市の桧原運動公園等を運営しております。社会貢献に取り組み、技術者雇用、若年者高齢者雇用、地域の祭りへの参加、インターンの受入、ワークショップの実施等を行っています。

加えて、24年度4月からはグリーンピアなかがわの指定管理業務が始まりました。この業務は森林の重要性を伝えることや林業の発展に寄与すること、地域の観光や産業に寄与することが求められています。このことにより、私たちがこれまで取り組んできた社会貢献がボランティアに留まらず事業として取り組む必要性が出てきました。そのために、これまで取り組んできた環境経営がより経営の本質的なところと一体化することを目指していきたいと考えています。



目 次

1.	会社概要		4
2.	対象範囲		6
3.	環境活動推進体制		7
4.	環境方針		8
5.	マテリアルバランス		9
6.	環境目標		10
7.	環境活動計画		11
8.	環境目標の実績		13
9.	環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組予定		14
10.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無		22
11.	代表者による全体評価と見直しの結果		23
12.	社会貢献		27
13.	地球温暖化の緩和、快適な環境づくり		29
14.	リサイクル事業（産業廃棄物・一般廃棄物）		31



本 社
(福岡市南区長丘 3-13-27)



緑のリサイクルセンター
(久留米市田主丸町)



いきもの観察会



圃 場

1. 会社の概要

- 会社名 木下緑化建設株式会社
- 代表者名 代表取締役社長 木下 浩市
- 所在地 本 社 福岡市南区長丘3丁目13番27号
田主丸営業所 福岡県久留米市田主丸町志塚島219-1
緑のリサイクルセンター 福岡県久留米市田主丸町志塚島字徳間林1-3
- 環境管理責任者 営業部部長 平嶋 泰
- 連絡先 TEL 092-551-0877
FAX 092-552-7041
E-mail kanri@kinoshitaryokuka.com
HP kinoshitaryokuka.com
- 営業種目 1.公共緑地・街路緑地 4.庭園運営業務・指定管理者・緑地管理
2.街並計画・住宅外構・ビル緑地・個人庭園 5.リサイクル事業
3.屋上緑化・壁面緑化・駐車場緑化 6.樹木生産
- 設 立 昭和42年 2月 9日
- 資本金 4,500万円
- 売上高 平成26年度 77,459万円
- 事業年度 平成25年10月1日～平成26年9月30日
- 従業員数 33名
- 床面積 本社 612.15㎡ 田主丸営業所 52㎡ 緑のリサイクルセンター 3,888㎡
- 許可番号

造園工事業 国土交通大臣許可（特-22）第7066号

土木工事業、とび・土工工事業 国土交通大臣許可（般-22）第7066号

【産業廃棄物処分業許可証】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日
福岡県知事	第4020080473号	中間処理 【破碎（移動式を含む）】：木くず 中間処理（発酵）：木くず	平成23年11月29日 平成28年11月28日
久留米市長	第11220080473号	中間処理【破碎（移動式を含む）】 ：木くず 中間処理（発酵）：木くず	平成23年11月29日 平成28年11月28日

【一般廃棄物処分業許可証】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日
久留米市長	第3014号	中間処理 【破碎（移動式を含む）】：木くず、草 中間処理（発酵）：木くず、草	平成26年4月 1日 平成28年3月31日

【産業廃棄物収集運搬業許可】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日	積替 保管
福岡県知事	第 4000080473 号	木くず	平成 23 年 10 月 20 日 平成 28 年 10 月 19 日	無

【一般廃棄物収集運搬業許可】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日	積替 保管
久留米市長	第 1014 号	木くず、草 (事業系一般廃棄物に限る)	平成 26 年 4 月 1 日 平成 28 年 3 月 31 日	無

【特殊肥料生産販売】

福岡県 第 2201 号

リサイクルウッド堆肥 福岡県第 4895 号 (チップ)
 ゴールデンアース 福岡県第 5204 号 (放線菌)
 ゴールデンアース 2 福岡県第 5249 号 (キンド・尿素等)

●資格者数

資格名	人数	資格名	人数
1 級造園施工管理技士	12 名	公園管理運営士	2 名
2 級造園施工管理技士	3 名	植栽基盤診断士	2 名
1 級土木施工管理技士	4 名	街路樹剪定士	2 名
2 級土木施工管理技士	5 名	破碎・リサイクル施設技術管理士	3 名
1 級建築施工管理技士	1 名	自然再生士	1 名
樹木医	1 名	自然再生士 (補)	1 名
ピオトープ管理士 (2 級施工)	1 名	屋上緑化コーディネーター	3 名

●収集運搬

運搬車両の種類と台数

キャブオーバー 2 t 2 台
 ダンプ 2 t 1 台
 キャブオーバー 2.85 t 1 台
 コンテナ専用車 3.85 t 1 台

●処理施設

施設の種類 移動式破碎施設 (日立建機日本株 ZR260HC)
 処分能力 (規模) 213 t / 日 (8h)
 処理工程図 別紙

施設の種類 移動式破碎施設 (株式会社諸岡 MC-2000 型)
 処分能力 (規模) 27.44 t / 日 (8h)
 処理工程図 別紙

●認証等

ISO・9001 承認取得 登録番号 JSAQ 1368 審査登録機関 財団法人 日本規格協会
 エコアクション21 認証登録番号 0006924 一般財団法人 持続性推進機構



平成24年度環境活動レポート大賞 奨励賞



平成25年度環境活動レポート大賞 九州地方環境事務所特別賞



平成26年度環境活動レポート大賞・九州

エコ事業所 認定番号第 1809 号 福岡県地球温暖化防止活動推進センター
 社会貢献優良企業認定（環境配慮型事業）（エコアクション21 認証取得）

2. 対象範囲

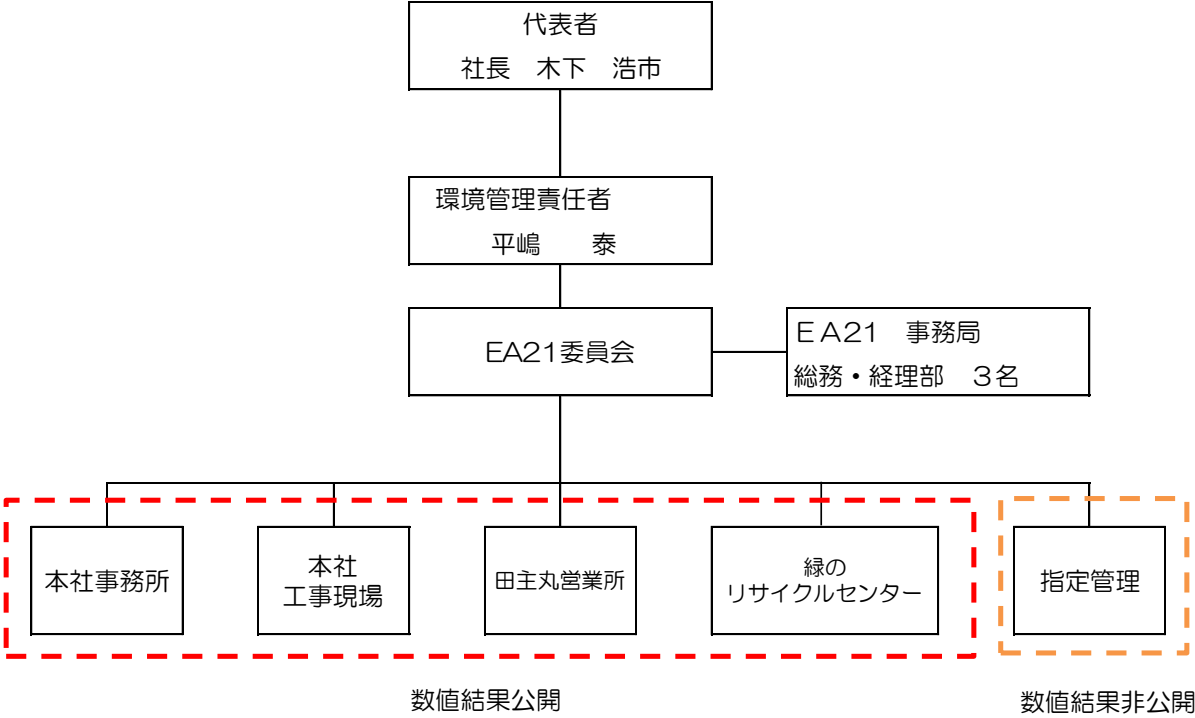
(1) 事業者名 所在地	木下緑化建設株式会社 815-0075 福岡県福岡市南区長丘3丁目13-27
(2) 対象事業所	本社 田主丸営業所 緑のリサイクルセンター
(3) 活動	造園工事業・土木工事業・とび・土工工事業 産業廃棄物処分業・一般廃棄物処分業 産業廃棄物収集運搬業・一般廃棄物収集運搬業

全組織・全活動が認証登録範囲です。

3. 環境活動推進体制

組織図

E A 2 1 実施体制



・役割分担表

所属	役割・責任・権限
代表者（社長）	- 代表として環境経営全般について責任と権限を持つ - 環境方針を作成・見直し・従業員に周知する - 環境管理責任者、E A 2 1 事務局員を任命する - E A 2 1 全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する。
環境管理責任者	- E A 2 1 ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し、環境実績を向上させる。 - 環境方針、環境目標、環境活動計画の達成と実績の結果を合同会議で報告する。 - 発生した問題点を経営会議で報告し、是正処置、予防処置を合同会議にて全従業員へ周知徹底する。
EA21 事務局	- 環境管理責任者を補佐し、E A 2 1 文書及び記録類の作成・維持・管理を行う。 - 社外からの環境情報の収集と伝達を行う。
EA21 委員会（経営会議）	- 環境方針、環境目標の達成状況及び環境計画の実行状況を審議する。 - 関連する法規制等を各課員へ周知徹底し順守する。 - 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚する。 - 緊急事態への準備及び対応の訓練をK Y活動で実施する - E A 2 1 方針を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

4. 環境方針

環 境 方 針

【基本理念】

『環境づくりに技術研鑽を通じて地域社会に貢献する。』

【環境方針】

木下緑化建設株式会社は、緑の住環境づくりを通じて「快適な暮らしと緑」「自然との共生」を掲げ、全従業員が事業活動のあらゆる面で、地球環境に影響を与えていることを配慮して行動します。

1. 環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして取り組みます。

- (1) CO₂排出量の削減
- (2) 廃棄物の削減
- (3) 排水量（水使用量）の削減
- (4) リサイクルの促進
- (5) グリーン購入の促進
- (6) ビオトープへの取組
- (7) 社会貢献に努める
- (8) 計画的な環境教育・訓練の実施
- (9) 化学物質の適正管理

2. 地球温暖化の緩和、快適な環境づくりに貢献します。

- (1) 公園、集合住宅緑化、工場緑化、外構造園の緑化事業はもとより、屋上緑化、壁面緑化、駐車場緑化等の環境緑化事業を推進します。
- (2) 開発やメンテナンスにより発生する根株や剪定枝、草をチップ化し堆肥製造させて植生基盤材として、新しい緑地へ還元します。

3. 関係する環境関連法規を順守します。



制定日：平成 22 年 10 月 1 日

木下緑化建設株式会社
代表取締役社長 木下 浩市

5. マテリアルバランス

下図は 26 年度の資源や資材の投入（インプット）から環境負荷量（アウトプット）までを示したものです。

資 源 投 入 量（インプット）					
エネルギー使用量			資源等使用量		
電力量		51 千 kWh	圃場樹木（H25.9.30 現在）		5,526 本
上水		164.0m ³	循環資源使用量		25,843.6 t
地下水		84.9m ³	その他資源		1,952.6 t
燃料	ガソリン	31,216.8 ℓ	コピーカウンター	モノクロ	11 万枚
	軽油	101,171.3 ℓ		カラー	7 万枚



事 業 活 動			
			
緑化事業	指定管理	樹木生産・販売	リサイクル事業

屋上緑化施工面積	450.6 m ²
樹木供給量（植栽樹木本数）	41,006 本
圃場樹木（H26.9.30 現在）	7,061 本

リサイクル事業（中間処理）	
①産業廃棄物	1,794.0 t
②一般廃棄物	3,808.0 t
③再資源化量	5,278.8 t
（木くず）チップ化	1,965.0 t
（木くず）チップ、バイオマス燃料	1,635.0 t
（木くず・草）発酵、堆肥化	1,678.8 t



環 境 負 荷 量（アウトプット）			
二酸化炭素排出量	373 千 kg-CO ₂	一般廃棄物	84.7 t
排 水	248.9m ³	産業廃棄物	195.4 t

6. 環境目標

中期環境目標は、下記の通りです。

環境目標			単位	24 年度 実績	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
1	二酸化炭素排出量 の削減	本社事務所	kg- CO ₂	50,663	47,008.0	45,997	44,986	44,583
		田主丸（営）	kg- CO ₂	1,712	1,584.0	1,550	1,516	1,506
		本社現場	kg- CO ₂	42,528	39,551.0	38,700	37,850	37,424
		田主丸現場	kg- CO ₂	36,675	34,107.8	33,374	32,641	32,274
		緑のサイクルセンター	kg- CO ₂	115,951	107,818.6	105,500	103,181	102,022
		小計	kg-CO2	247,529	230,069.4 (7%)	225,120 (9%)	220,173 (11%)	217,809 (12%)
2	廃棄物排出量の削減 (一般廃棄物も含む)	本社現場	t	412.5	383.6 (7%)	375.4 (9%)	367.1 (11%)	363.0 (12%)
		緑のサイクルセンター	t	14.2	13.2 (7%)	12.9 (9%)	12.6 (11%)	12.5 (12%)
		小計	t	426.7	396.8 (7%)	388.3 (9%)	379.7 (11%)	375.5 (12%)
3	上水使用量の削減	事務所	m ³	164	152.5 (7%)	149.2 (9%)	146.0 (11%)	144.3 (12%)
		小計		164	152.5	149.2	146.0	144.3
	地下水使用量の削減	田主丸（営）	m ³	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0
		緑のサイクルセンター	m ³	86.2	86.2	86.2	86.2	86.2
		小計	m ³	116.2	116.2	116.2	116.2	116.2
4	廃棄物リサイクルの促進	本社現場	%	90%	90%	90%	90%	90%
	産廃受託 リサイクル事業の促進	緑の リサイクルセンター	t	4,095	4,381.6 (107%)	4,464 (109%)	4,505 (110%)	4,586 (110%)
5	グリーン購入を促進します		円	98,700	100,580 (102%)	102,460 (104%)	104,340 (105%)	104,622 (106%)
6	ビオトープへの取組 活動計画として取り組みます。							
7	社会貢献につとめます 活動計画として取り組みます。							
8	計画的な環境教育・訓練の実施（造園 CPD 年間推奨 50 単位）					50 単位	50 単位	50 単位

注意：25 年度より一部目標の改訂を行っています。

1. 廃棄物搬出量は、産業廃棄物管理票交付等状況報告書（4 月～3 月）に基づき目標を改訂しました。
2. 上水及び地下水使用量は、より実測値に合わせたため増加しました。
3. グリーン購入は、実現可能な数値に改め算出しました。
4. 廃棄物搬出量の削減とグリーン購入の促進については、H25 年度に基づき目標を改訂しました。
5. 表中の（ % ）は基準年度実績値に対する削減率あるいは増加率を表す。

7. 環境活動計画

環境活動計画は下記の通りです。

二酸化炭素排出量 7%削減 (取組み：全事業所) 担当者：平嶋 泰	
● 全社員出席の合同会議（各月 1 回）の議題の中に E A21 報告” を設る。 (責任者：平嶋) ✚ 電気使用量の削減、燃料（ガソリン、軽油）の削減を周知徹底する ● 朝礼で” E A21 スローガン” 唱和 ✚ 環境活動の周知徹底	
電気使用量 7%削減 (取組み：本社事務所・緑のリサイクルセンター・田主丸営業所)	
● 空調や照明の制御 (責任者：岩田) ✚ 使用していない機器類の電源 OFF (OA 機器・パソコン・エアコン等) ✚ 不必要箇所の照明消灯（昼休み時、外出時、時間外勤務時など） ● 仕事の効率化を図る (責任者：藤田) ✚ 時間外労働を減らす（ipad 等の有効活用で社内外連絡の効率化等）	
燃料費の削減 7%削減 (取組み：全事業所)	
● 仕事の効率化を図る (責任者：石橋) ✚ ipad を活用した情報伝達で無駄な移動を無くす ● 車両の買換え (責任者：平嶋) ✚ 幹部車両の買換えはハイブリットカーとする ● ガソリン消費の抑制 ✚ アイドリングストップの励行とエコドライブの徹底 (責任者：森永) ✚ 適正なタイヤ圧での走行と不要な荷物、工具の荷積み禁止 (責任者：森永) ✚ 定期的な破砕機の点検整備 (責任者：緑のリサイクルセンター) ✚ 作業時以外は機械(破砕機)のエンジンを切る (責任者：緑のリサイクルセンター)	
産廃ボックスの廃棄物削減量 7%削減 (取組み：本社（事務所及び現場）・緑のリサイクルセンター)	
● 発生原因の重大要素をつかむ (責任者：木下 佐) ✚ 産廃ボックス使用ノートに発生原因と発生重量（目安）を記入する ✚ 主たる発生原因の改善策を設定する。 ● 廃棄物データを取得する。 (責任者：緑のリサイクルセンター) ✚ 混入した木くず以外の廃棄物データを取得する。	
コピー機コピー枚数 7%削減 (取組み：本社（事務所・指定管理）)	
● 紙媒体以外の P R 強化 (責任者：下田代) ✚ グリーンピアながわ（キャンプ施設 指定管理者）のイベント P R の為のパンフレット、チラシの作成と併せて、HP、フェイスブックでの広報活動を推進させる ・ HP、フェイスブックの更新回数 ・ フェイスブック記事のシェア拡大の件数 ・ いいね の獲得件数 ・ 既存媒体の活用 ● 使用済紙の再利用 (責任者：岩田) ✚ コピー裏紙の再利用	
水使用量 7%削減 (取組み：本社事務所・緑のリサイクルセンター・田主丸現場)	
● 水資源の無駄のないように実績管理 (責任者：木下 佐) ✚ こまめな節水 ● 出荷予定樹木の夏場の灌水 (責任者：綾部) ✚ 田主丸農場での樹木仮置き期間の短縮 ✚	
リサイクルの促進 (取組み：事務所及び現場)	
● 産業廃棄物の分別 (責任者：森永) ✚ 木くず・金くず類の保管場所を決めて適正処分	
産廃受託リサイクル事業の促進 (取組み：緑のリサイクルセンター)	
● 産廃受託をふやす (責任者：緑のリサイクルセンター) ✚ リサイクル製品の活用 P R	

グリーン購入の促進（取組み：本社事務所）	
● グリーン購入（責任者：木下 佐） ✚ グリーン購入（事務用品、消耗品等）	
ビオトープへの取り組み（取組み：本社（指定管理（グリーンピアなかがわ））	
● 自然教育の実施（責任者：下田代） ✚ 8回開催 ● 九千部山での種の確認（責任者：下田代） ✚ 昆虫・小動物100種 植物200種 ● 生物多様性の重要性啓発（責任者：下田代） ✚ フェイスブック更新200回	
社会貢献に努めます	
● 環境活動や子供たちの育成に協力、地域イベントに参加し指導に努める	
計画的な環境教育・訓練の実施	
● 造園 CPD 年間推奨 50 単位を取得する	
化学物質の適正管理	
● 使用する農薬の管理	

スローガン（エコアクション標語）

節電に努めます

- ・空調の温度設定（冷房 28℃、暖房 20℃）
- ・照明や OA 機器のこまめなスイッチオフ
- ・昼休み、人のいないところの消灯
- ・省エネ製品の使用

資源の有効利用に努めます

- ・コピー前の設定確認（間違いコピーの防止）
- ・両面コピー、縮小コピーの活用
- ・コピー紙の裏面使用、封筒の再利用
- ・電子媒体の活用（E メール、CD、DVD 等）
- ・エコ製品、グリーン文具の使用
- ・水道の蛇口のこまめな開閉
- ・家電品のリサイクル

ゴミの削減に努めます

- ・分別の徹底と排出ルール of 厳守
- ・資源ゴミのリサイクル
- ・ゴミの適正処理（処理委託契約、事業系ゴミの搬出）
- ・過剰包装の排除

エコドライブに努めます

- ・ふんわりアクセル
- ・加減速の少ない運転
- ・早めのアクセルオフ
- ・アイドリングストップ
- ・エアコン使用をひかえめに
- ・不要な荷物は積まずに走行
- ・タイヤの空気圧をこまめにチェック

8. 環境目標の実績

環境目標の実績は、下記の通りです。

環境目標		単位	24 年度 実 績	H26 年度		H26 年度 達成率	目標達 成判定
				目標	実績		
二酸化炭素排出量 7%削減	本社事務所	kg- CO ₂	50,663	47,007.8	67,983.7	55.4%	×
	田主丸（営）	kg- CO ₂	1,712	1,584.0	2,973.1	12.3%	×
	本社現場	kg- CO ₂	42,528	39,551.0	38,419.4	102.9%	○
	田主丸現場	kg- CO ₂	36,675	34,107.8	39,040.7	85.5%	×
	緑のサイクルセンター	kg- CO ₂	115,934	107,818.6	224,089.2	-7.8%	×
	小 計	kg- CO ₂	247,512	230,069.2	372,506.1	38.1%	×
電気使用量 7%削減	本社事務所	kWh	59,902	55,708.8	39,828.0	138.4%	○
	田主丸（営）	kWh	4,424	4,114.3	4,850.0	82.1%	×
	緑のサイクルセンター	kWh	8,981	8,352.3	11,404.0	63.5%	×
	小 計	kWh	73,307	68,175.4	56,082.0	103.6%	○
燃料使用量の削減 7%削減	本社事務所	リットル	11,910	11,076.3	18,484.4	33.1%	×
	本社現場	リットル	17,500	16,275.0	15,990.2	101.7%	○
	田主丸現場	リットル	14,501	13,485.9	15,188.3	87.4%	×
	緑のサイクルセンター	リットル	42,859	39,858.8	82,725.0	-7.5%	×
	小 計	リットル	86,770	80,696.0	132,387.9	35.9%	×
廃棄物排出量の削減（一般 廃棄物も含む）	事務所及び現場	t	412.5	383.6	181.2	152.7%	○
	緑のサイクルセンター	t	14.2	13.2	14.1	93.2%	×
	小 計	t	426.7	396.8	195.3	150.1%	○
コピー機カウント枚数 7%削減	モノクロ	枚数	103,041	95,828	111,366	83.8%	×
	カラー	枚数	75,500	70,215	73,504	95.3%	×
	小 計	枚数	178,541	166,043.1	183,242	89.6%	×
上水使用量の削減	事務所	m ³	164	152.5	164	92.5%	×
	小 計	m ³	164	152.5	164	92.5%	×
地下水使用量の削減	田主丸（営）	m ³	30.0	30.0	28.5	105%	○
	緑のサイクルセンター	m ³	86.2	86.2	56.4	134.6%	○
	小計	m ³	116.2	116.2	84.9	126.9%	○
廃棄物リサイクルの促進	本社現場	%	90%	90%	90%	100%	○
産廃受託 リサイクル事業の促進	緑のサイクルセンター	t	4,095	4,381.6	5,614	128.1%	○
グリーン購入を促進します	事務所	円	98,700	100,580	64,312	63.9%	×

達成状況の判定 ○：達成できている（100%以下） ×：達成できていない（100%以上） —：判定できない

注 1： 環境省が公表する九州電力㈱の排出係数を用いています。

H24 年度の排出係数は、0.387 CO₂/kWh ですが、H26 年以降は 0.613 CO₂/kWh を用いています。

二酸化炭素排出係数の違いで、H26 年度は CO₂ として 3.4%多くなっています。

9. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組予定

1) 二酸化炭素排出量 7%削減 取組：全事業所 （責任者：平嶋）

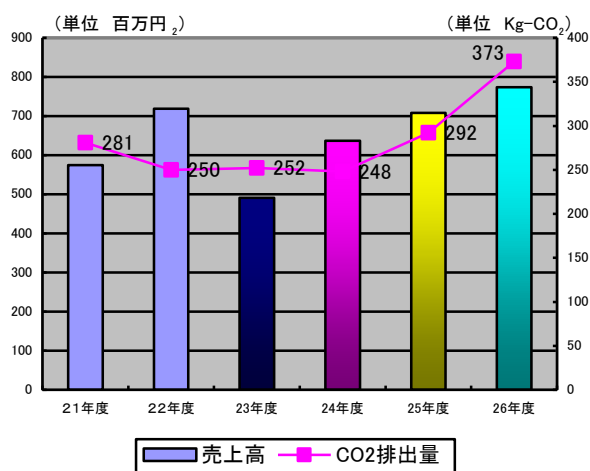
取組結果

計画に反映された取り組みは確実に実施されている。

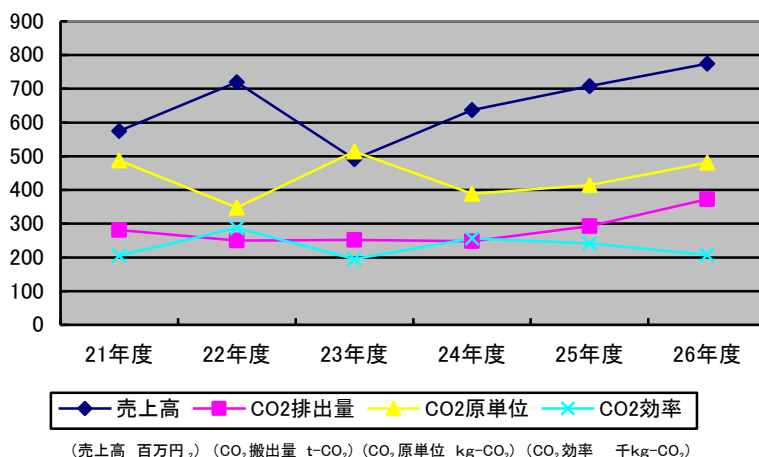
取 組 項 目	結 果
合同会議の議題に” E A21 報告” を設ける	○
朝礼で” E A21 スローガン” 唱和	○

- 全社員出席の合同会議（各月 1 回）の議題の中に“E A21 報告”を設けます。
 - エコドライブの一環として運行前点検を求めているが、1 ヶ月平均 11 枚/25 枚であり未提出者が多かったです。（本社事務所）
 - Dropbox が可能になり、必要な書類やデータを会社に戻ることなく、その場で受け取る事で、移動にかかる時間や使用燃料を削減出来ようになりました。（本社事務所）
 - リサイクルセンターは、破砕機を毎日自主点検、年 1 回点検と定期的な点検整備を行い、作業時以外は、こまめにエンジンを切っています。（緑のリサイクルセンター）
- 朝礼で“E A21 スローガン”唱和
 - 毎朝朝礼で唱和をし、参加できなかった社員には、メール発信で周知徹底しています。（本社事務所）

二酸化炭素排出量 kg- CO₂



二酸化炭素排出量の推移



	単位	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
売上高	百万円	575	719	491	637	708	775
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	281	250	252	248	293	373
CO ₂ 原単位	t-CO ₂ /百万	0.488	0.348	0.514	0.389	0.414	0.481
CO ₂ 効率	百万円/t-CO ₂	2.05	2.87	1.95	2.57	2.41	2.07

評 価

二酸化炭素の全体排出量は、売上高の増加に比例する形で増量の結果となりました。大きな要因として、緑のリサイクルセンターでの一般廃棄物、産業廃棄物のさらなる受入れ増加に伴い場内の重機及び破砕機の活動量も比例して増加した事が軽油使用の増加につながったと考えられます。また、本社側でも、工事の増加に伴い、重機・車両の使用が増えたことも、排出量増加の一因と思われます。対策として、機械に頼らない中間処理のため、未破砕草の発酵処理（堆肥製造）強化を引き続き行っていくと共に、未使用重機のこまめなエンジンオフ、リサイクル場内の移動経路や作業工程の見直しという基本に立ち返った対策を取っていきます。

平成 27 年度 環境活動計画

- 全社員出席の合同会議（各月 1 回）の議題の中に E A21 報告” を設け、電気使用量の削減、燃料（ガソリン、軽油）の削減を周知徹底する。
- 朝礼で“エコアクション 21 スローガン”

2) 電気使用量 7%削減 取組：本社事務所・緑のリサイクルセンター・田主丸営業所

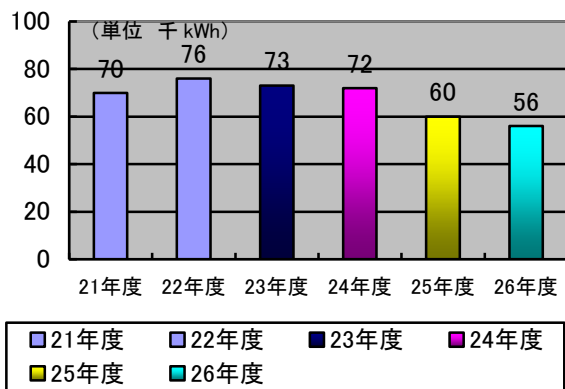
取組結果

取 組 項 目	結 果
使用していない機器類の電源 OFF (OA 機器・パソコン等)	○
不用な箇所の照明消灯 (昼休み時、外出時、時間外勤務時等)	○
仕事の効率化を図り時間外労働を減らす (iPad 等の有効活用で社内外連絡の効率化等)	○

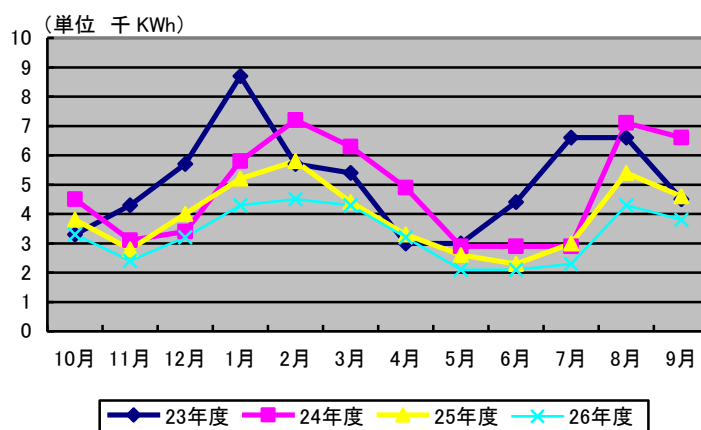
基準年度24年度が100%の場合

年度	消費電力量 (単位 千kWh)	削減率%
24年度	72	0.0%
25年度	60	16.7%
26年度	56	22.2%

消費電力量（全体）



本社（床面積 612.15m²）電気消費量(本社)



1. 空調や照明の制御（責任者：岩田）（本社事務所）

- ・照明は、個別リモコンを使用することで、デスク単位での点灯、消灯コントロールが可能となった事により、省エネ効果が上がっています。
- ・現場からの帰社時間が早くなったので、残業が短くなっています。

2. 仕事の効率化を図る（責任者：藤田）（本社現場）

- ・現在はコンビニからのネット印刷が可能となり、必要な書類やデータを会社に戻ることなく、その場で受け取る事で、移動にかかる時間や使用燃料を削減出来ています。
- ・出先の担当者へ客先からのメールデータ（プレゼンや図面）を iPad に送り、打ち合わせの効率化を図っています。
- ・各現場の工程を iPad で共有し、作業の効率化を図っています。
- ・Dropbox が可能になり、必要な書類やデータを会社に戻ることなく、その場で受け取る事で、移動にかかる時間や使用燃料を削減出来ようになりました。



現場近くのコンビニを利用して
ネット印刷で仕事の効率化



評 価

本社電気消費量に関しては、iPad の活用レベルが上がり、移動時間の減少等、仕事の効率化を図ることで、時間外労働の軽減を行えたことが、大きな省エネ効果をもたらす結果となりました。

また、完全 LED 化によるデスク単位での点灯、消灯のコントロールが全社員に浸透し、いないときには必ず消す、という実践の徹底度が高まっていることも大きく寄与いたしました。その結果、今年度は、全ての月で昨年を下回る電力消費量に抑えることが出来ました。

平成 27 年度 環境活動計画

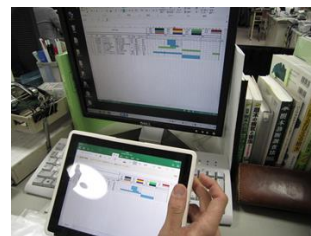
- ・ iPad を活用して時間外労働の軽減
- ・ デマンドモニタで電力消費の節電検証
- ・ クールビズ、ウォームビズの徹底
- ・ 仕事の効率を図る

3) 燃料の削減 7%削減 取組：全事業所

取組結果

積極的な活動の結果達成できました。

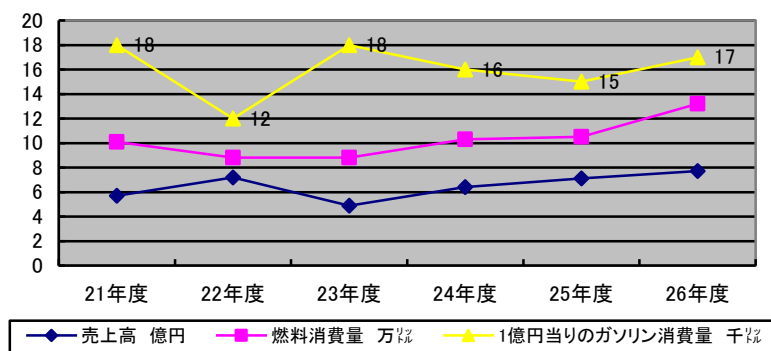
取 組 項 目	結 果
仕事の効率化を図る	○
車両の買換え	△
ガソリン消費の抑制	○



PC と ipad の画面

現場で事務所の PC と同期・閲覧できる。

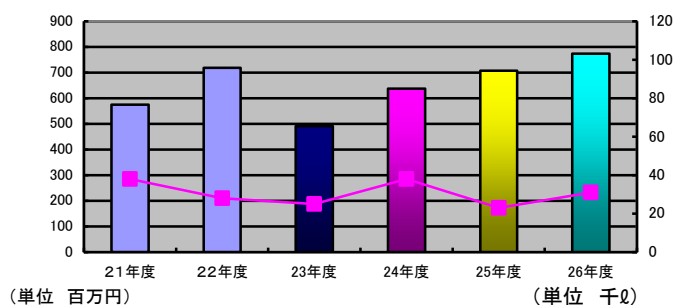
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
売上高 億円	5.7	7.2	4.9	6.4	7.1	7.7
燃料消費量 万リットル	10.1	8.8	8.8	10.3	10.5	13.2
1億円当りの燃料消費量(千リットル)	18	12	18	16	15	17



WiFi で ipad を利用

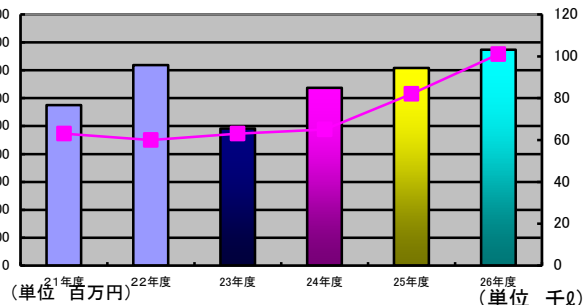
ガソリン消費量(全体)

売上高 ガソリン



軽油消費量(全体)

売上高 軽油



1. 仕事の効率化を図る (責任者：石橋) (本社現場)

- 毎週水曜日、工務担当者、営業担当者を交えて会議を行い、現場工程、協力業者の工程、その他問題点など情報の共有化を図っています。
- 6 台の iPad が 2 年契約満了したため、今までの iPad をオフラインにして、WiFi 接続で iPad を利用できるようにしています。

2. 車両の買換え (責任者：平嶋) (本社事務所)

- 27 年度に購入予定を考えています。

3. ガソリン・軽油消費の抑制 (森永・藤本)

- 合同会議時、運用前点検リストを配布して点検実施を行っていますが、未提出が多かった。(全事務所)
- 産廃の搬入が増えたので、毎日自主点検を行い、早めに備品交換をすることで稼働時間に影響が出ないように心がけています。(緑のリサイクルセンター)
- 作業時以外はエンジンを止め、稼働時間を守っています。(緑のリサイクルセンター)

評 価

燃料に関しては、完工高に比例し、ガソリン消費量も増加する結果となりました。

しかし、それでも 24 年度のガソリン消費量を下回れた事は、iPad 活用に伴う会社から現場、また、現場から現場の移動に対し、誰が移動するのが一番早いのか？近いのか？を検討し行動できるようになったことが、大きく寄与していると考えます。

また、対策として、導入時に大きな削減効果をもたらした、エコカーの購入を順次行っていく事が必要であると考えております。

平成 27 年度 環境活動計画

- iPad を活用した情報伝達で無駄な移動を無くす
- 幹部車両の買換えはハイブリットカーとする
- アイドリングストップの励行とエコドライブの徹底
- 適正なタイヤ圧での走行と不要な荷物、工具の荷積み禁止
- 定期的な破碎機の点検整備
- 作業時以外は機械(破碎機)のエンジンを切る

位置情報の共有化による移動効率アップ



iPad の GPS 機能を活用（いまここ）



電話での位置情報共有では効率が悪い

無駄な移動や情報伝達を減らしたい。

誰がどこに行くのが効率的か？

4) 産廃ボックスの廃棄物排出量 7%削減

(取組み：本社（事務所及び現場）・緑のリサイクルセンター）

取組結果

本社産業廃棄物の分別集計が出来なくなった。

取 組 項 目	結 果
工程改善による不良品発生率の低減	○
分別の徹底と搬出のルール	○
公園利用者にゴミの持ち帰り声かけ運動	○
ゴミ分別の徹底と適正処分	×

1. 発生原因の重大要素をつかむ（責任者：田中）（本社現場）

- ・iPad 同様情報共有で削減展開未だ継続中
- ・産廃ボックス使用ノート記入件数 178 件 廃棄物引取回数 13 回でした。これからも継続します。

本社産業廃棄物排出量（単位 t）

	ｺﾝｸﾘｰﾄがら	紙くず	木くず	金属くず	ガラス類	繊維くず	がれき類	合計
23年度	19.4		5.1				30.0	54.5
24年度	17.0	20.0	20.5	7.5	17.0	10.0	17.5	109.5
25年度	0.3	19	19	19	19	19	18	113.3

緑のリサイクルセンター産業廃棄物排出量（単位 t）

	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	紙くず	木くず	金属くず	ガラス類	がれき類	合計
21年度	4.00	0.95		0.15		0.30	5.4
22年度	9.10	1.40	1.40	1.10	0.10	0.50	13.6
23年度	12.20	0.60	0.60	0.60	0.10	0.10	14.2
24年度	16.30	1.30	0.60	0.80		0.40	19.4
25年度	12.20	0.60	0.60	0.60	0.1	0.10	14.1

2. 廃棄物データを取得する。（責任者：藤本）

（緑のリサイクルセンター）

- ・樹木以外（特に廃プラスチック類が特に多い）ので、搬入者へチラシと看板で注意を喚起します。

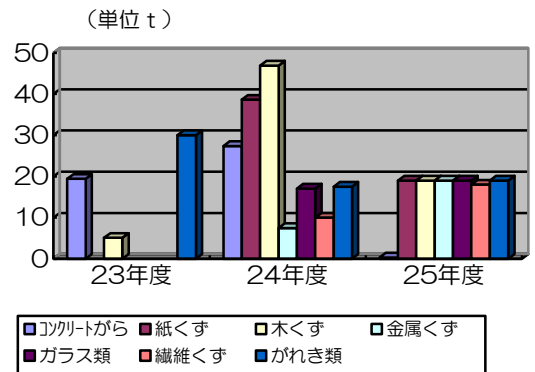
リサイクルを目的とした施設なので、鉄くず、ゴミ等の混入があった場合、受取を拒否する場合があります。

評 価

産業廃棄物の搬出量に関しては、緑のリサイクルセンターにおいて、当センターでは処分出来ない、樹木以外の廃棄物を混合しないように、告知を続けた結果、最大の排出量を占めていたプラスチック類の減量に成功し前年を大きく下回る排出量(図2)となりました。

一方、本社の産業廃棄物は図1のとおりです。

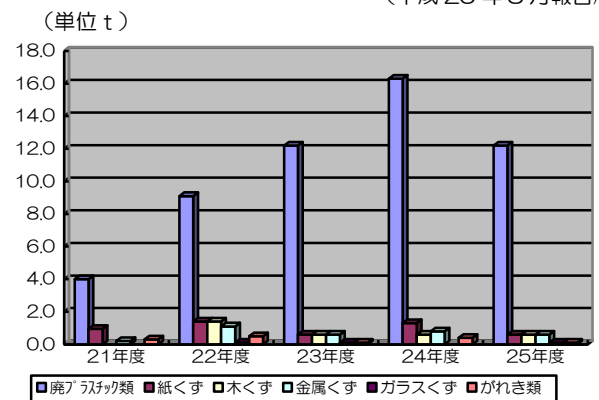
本社産業廃棄物排出量（図1）（平成26年4月報告）



（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）

緑のリサイクルセンター産業廃棄物排出量（図2）

（平成25年8月報告）



（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）



産廃ボックスと使用ノート



平成27年度 環境活動計画

- ・産廃ボックス使用ノートに発生原因と発生重量（目安）を記入し発生原因の重大要素をつかむ
- ・主たる発生原因の改善策を設定する
- ・緑のリサイクルセンターで混入した木くず以外の廃棄物データを取得する

5) コピー使用率 7%削減 取組：本社事務所

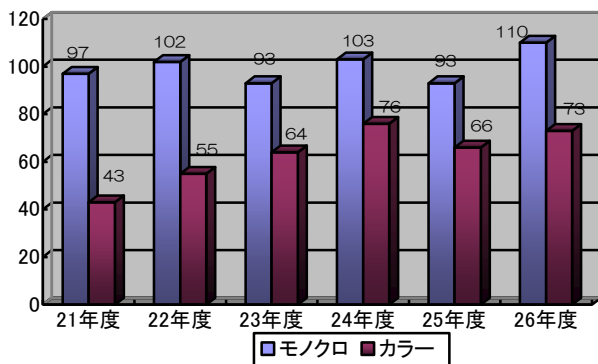
取組結果

取組の実行はされています。

取 組 項 目	結 果
紙媒体以外のPR強化	○
使用済紙の再利用	×

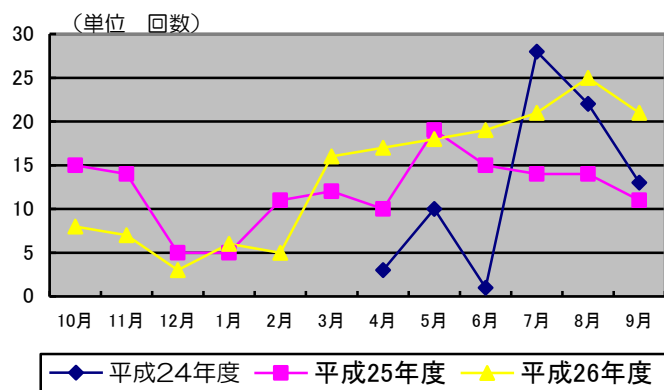


(単位 千枚) コピーカウント枚数(本社事務所)

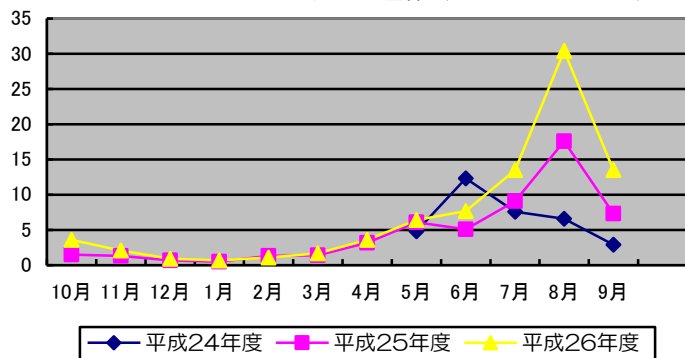


那珂川町役場の指定管理者募集で書類 10 部提出

HP、フェイスブックの更新回数(グリーンピアながわ)

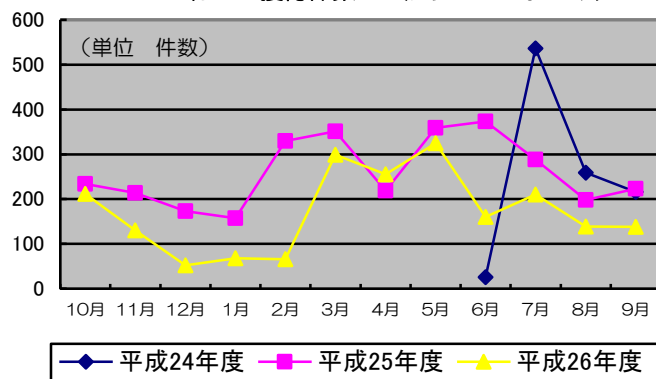


(単位 千回) HP アクセス回数(グリーンピアながわ)



HP にキャンプ村のバンガロー、バーベキュー等の情報を提供

いいね の獲得件数 (グリーンピアながわ)



- 紙媒体以外のPR強化(責任者:下田代)(指定管理)
 - HP にキャンプ村の情報を発信したので7月、8月のアクセスが多かった。
 - フェイスブックの記事を見た人の分析をした結果、88 回更新し、1 回あたり 134.3 人となります。HP、フェイスブックとも園内情報、イベント情報の内容充実を図り早め早めに更新します。
- 使用済紙の再利用 (責任者:岩田)(本社事務所)
 - カタログやプレゼン資料印刷の為印刷時の範囲設定ミスで無駄にコピー用紙を出力している。
 - 書類をシュレッダーにかけず、そのまま捨てている。

評 価

パンフレット、チラシ作成に代わり HP、フェイスブックでの広報活動を継続して推進させた結果、キャンプ場のハイシーズンである6月、7月、8月、9月のHP アクセスを、さらに伸ばす事に成功しています。

しかし、完工高の増加や指定管理への応募等、各所への提出書類の増加に伴い、モノクロ、カラー共にカウント数は増加という結果となりました。

対策として、社内使用書類は、裏紙使用の周知徹底を行う必要があります。また、フェイスブックのいいね獲得は減少傾向にあるため、事業内容以外の情報も発信し、内容の充実を図ります。

平成27年度 環境計画活動

- 紙媒体以外のPR強化 (責任者:下田代)
 - 既存媒体の活用で成果アップ
- 使用済紙の再利用 (責任者:岩田)
 - カタログやプレゼン資料印刷の為印刷範囲設定ミスを無くす

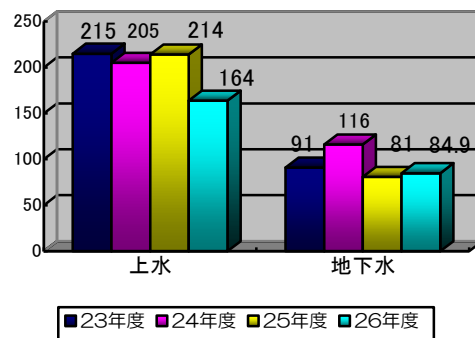
6) 水使用量 7%削減 本社事務所・緑のリサイクルセンター・田主丸現場

取組結果

事務所の各箇所での節水努力により達成している。

取 組 項 目	結 果
水資源の無駄のないように実績管理水	○
出荷予定樹木の夏場の灌水	○

水使用量（単位 m3）



1. 水資源の無駄のないように実績管理（責任者：木下）
 - ・H25 年度は水を出しっぱなしがあったので、ならないように気をつけています。（本社事務所）
2. 出荷予定樹木の夏場の灌水（責任者：綾部）（田主丸現場）
 - ・今年は夏場が涼しかったので、集荷前、入荷直後の樹木は、日陰に置き寒冷紗を掛けることに心がけています。

評 価

上水使用の本社において、夏場の気温が低かった恩恵により、日陰に置き、蒸散防止のネットを掛けることで夏場の灌水における上水の使用量を抑えることが出来ています。

さらなる対策としては、工程・工期の共有管理により、樹木を仮置き期間を短くし、灌水の必要頻度を下げる事で対応します。

平成 27 年度 環境計画活動

- ・田主丸農場での樹木仮置き期間の短縮
- ・こまめな節水

7) リサイクルの促進 取組：本社事務所及び現場

取組結果

確実に実行されています。

取 組 項 目	結 果
現場からの持ち帰り残材料の保管管理徹底	○



名札をつけて保管徹底

1. 産業廃棄物の分別（本社事務所）（責任者：木下）

駐車場が狭く成ったので、分別置き場の確保が出来なくなっています。

評 価

産業廃棄物の分別にとどまらず、余剰材料の再使用を徹底するため、持ち帰り材料には名札をつけた上で保管管理し、自身で使いきれない場合には、一斉メールにより、使用希望者を募って、使用しています。

平成 27 年度 環境活動計画

- ・余剰材料の種別保管により未使用材の廃棄ロスを無くす

8) グリーン購入の促進 取組：本社事務所

取組結果

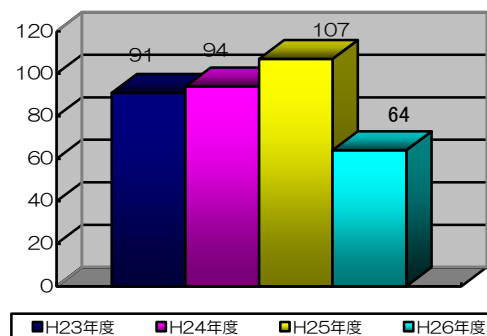
年間目標を達成できました。

取 組 項 目	結 果
グリーン購入（事務用品、消耗品等）	○

評 価

グリーン購入の活動は、取り組んでいますが購入が全体的に減る傾向が見えます。

グリーン購入（単位 千円）



平成 27 年度 環境活動計画

グリーン購入（事務用品、消耗品等）

9) ビオトープへの取組 取組：本社（指定管理・グリーンピアなかがわ）

ビオトープの取組

九千部山系において自然観察会を6回実施しています。
また、昆虫他小動物 103 種、植物 235 種の確認作業を進めています。
今後、自然観察会の参加者拡大、種の確認作業の推進
ビオトープ取組の広報充実を課題にしていきます。
また、生物多様性の重要性啓発のために福岡レッドレータブックの販売も推進しています。

平成 27 年度 環境活動計画

- ・自然教育の実施、8 回
- ・生物多様性の重要性啓発
福岡レッドレータブック 各 20 冊販売
- ・フェイスブック更新 200 回



福岡レッドレータブック 2014
福岡レッドレータブック 2011
グリーンピアなかがわと弊社で販売中

10) 社会貢献につとめます 取組：全事務所

取組結果

幅広く活動を行った。

取 組 項 目	結 果
社会貢献に努めます	○

評 価

桧原運動公園では、中学生の職場体験の受け入れ、地域おこしのサポート、自然教育等幅広く活動を行っています。

特に自然教育においては事業化を念頭に新たな目標設定を設けます。また、グリーンピアなかがわにおいては、森林の重要性、生物多様性の重要性を伝えていくために、いきもの観察会を推進していきます。

※活動内容については 12.社会貢献で再掲



いきもの観察会

11) 計画的な環境教育・訓練の実施 取組：全事務所 (造園 CPD 年間推奨 50 単位)

取組結果

取 組 項 目	結 果
計画的な環境教育・訓練の実施	○

評 価

社員教育委員会の主催する社員研修会(月 1 回)の中で、外部研修を受けた社員が、外部研修内容を講師になって教育していきます。



社内研修会風景

12) 使用する農薬の管理 取組：本社現場・田主丸現場

取組結果

取 組 項 目	結 果
使用する農薬の管理	○

評 価

農薬は一覧表を作成し、メーカーから SDS シートを取り寄せ管理しています。PRTR 法の該当物質を含む農薬はありませんでした。

住化 スミチン乳剤70 作成日：2007年 6月29日
改訂日：2011年 1月24日

◆ 住友化学株式会社
製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 住化 スミチン乳剤70
会社名 住友化学株式会社
住所 千104-8260 東京都中央区新川2-27-1
担当部署 アグロ事業部 お客様相談室
電話番号 0570-058-669

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康に対する有害性	急性毒性（経口） 急性毒性（経皮） 皮膚腐食性/刺激性	区分4 区分4 分類でない

農薬SDSシート

10. 環境関連法規への遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、控訴等の有無

環境関連法規	要求事項	遵守状況
グリーン購入法	一般的な義務	適
資源有効利用促進法	資源有効利用	適
建設リサイクル法	対象建設工事における分別解体等の実施義務	適
廃棄物処理法	一般廃棄物の処理（委託）	適
	一般廃棄物の処理（委託基準）	適
	産業廃棄物の処理（処理義務）	適
	産業廃棄物（処理基準）	適
	産業廃棄物（保管基準）	適
	産業廃棄物（委託）	適
	委託基準	適
	産業廃棄物（排出者責任）	適
	産業廃棄物管理票の交付	適
	投棄禁止	適
	焼却禁止	適
	産業廃棄物管理票の写しの保管期間	適
	管理票交付者の報告書	適
	管理票の写しの送付を受けるまでの期間	適
	管理票交付者が講ずるべき措置	適
水質汚濁防止法	排水基準の遵守義務	適
大気汚染防止法	排出基準の遵守義務	適
騒音規制法	設置の届出と規制基準の遵守	適
振動規制法	設置の届出と規制基準の遵守	適
悪臭防止法	規制基準の遵守義務	適
消防法	消防	適
労務安全衛生法	健康診断の実施	適

当事業所及び建設現場に適用される環境関連法規の順守状況を確認した結果、違反は有りませんでした。

また、関係機関及び利害関係者からの指摘も訴訟もありませんでした。

11. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価および見直しの実施日 2015 年 1 月 22 日
評価者（代表者） 木下 浩市 （社長）

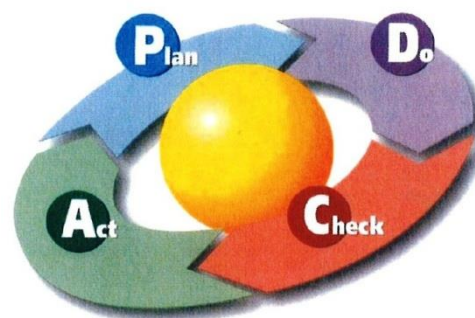
評 価

26年度は、事業の拡大や技術継承のために新入社員が数名入ってきています。これらの社員はエコアクション21の取組内容を十分に把握しているとは言えません。また、従来からの社員においても、環境目標・環境活動計画は理解していても、目標との乖離を事業の経過の中で把握しているとは言えません。この事は目標年度半ばでの改善力が発揮できません。継続的改善を実現するためには前記のことを改善することが必要と考えます。

また、26年度は軽油の使用量が大きく増大しています。燃料の使用の記録においては、社員の移動や建設工事の機械を稼働するための燃料と緑のリサイクルセンターで廃棄物の抑制のために破砕機を稼働させるための燃料とは意味合いが違うと考えます。次年度以降は燃料の集計法を改善する必要があります。

見直し（変更の必要性和指示）

- 新入社員に対する“エコアクション21 環境方針 環境目標・環境活動計画の説明会”を実施すること。
- 合同会議において3か月毎に数字を確認すること。その時点で目標との乖離が顕著なものについては、方策を策定すること。27年度の環境レポート作成時には年度内に行った軌道修正が読み取れるものとなるようにすること。
- 燃料の集計においては、建設業及び運営管理業務に関する燃料と、中間処分業として廃棄物抑制のために使用した燃料とを区別して集計すること。そして、中間処分業として使用した燃料は廃棄物抑制によるCO₂削減と相殺して効果を確認すること。
- 温室効果ガスをほとんど排出しない発電方法である「風力発電」の普及に取り込むこと。
- 本社建物の省エネルギー化に向けた検証を行うこと。



次年度への取組

1) 本社建物の省エネルギー診断結果

これまでの環境活動レポート内容から「空調を使用する夏季と冬季の消費量が多いことが分かった」ため、本社空調設備の交換を検討いたしました。

本社建物内に設置されている空調設備が、平成4年より使用されているものであったため、最新の省エネタイプ空調設備に変えることで、どれほどの削減効果が出るかを検証した結果(表1参照)38.4%の省電力効果が確認出来たため、来季、空調設備の取替に踏み切ります。

さらに、「西日による室内上昇対策のため、断熱性能、遮断性能が非常に高いウインドウフィルムを貼ること」が消費電力の削減に効果がある、ということから、こちらも実行することになります。

上記に関しましては、H26年事業度以外の施工では有りますが、現在環境レポート作業中であり、来年度(H27年度)の削減効果報告に繋げるためにご報告します。

設置内容	台数	施工	削減率(考慮)
室外機	10台	12/20~12/23 施工予定	
室内機	14台	12/20~12/23 施工予定	空調 25%
ウインドウフィルム	7㎡	12/6 施工	フィルム 10%
ウインドウフィルム(外貼り可)	23㎡	12/6 施工	フィルム 10%

エネルギー使用量の原油換算表(表1)

電気	単位	換算係数(GJ/単位)	平成25年度(実績)			平成27年度(導入後)		
			使用量 A	販売した副生エネルギーの量 B	差引後の熱量 (A-B) X 換算係数	使用量 C	販売した副生エネルギーの量 D	差引後の熱量 (A-B) X 換算係数
			数量	数量	熱量(GJ)	数量	数量	熱量(GJ)
延床面積	㎡		a	575.76		575.76		
一般電気 昼間買電	千kWh	9.97	43.22	0.0	430.9034	26.67	0.0	265.8999
事業者 夜間購買	千kWh	9.97	0.0	0.0		0.0	0.0	
上記以外の買電	千kWh	9.97	0.0	0.0		0.0	0.0	
自家発電以外の計 h	千kWh		Ah	43.2	Bh	0.0	-	
熱量合計	GJ				430.9			430.9
原油換算量 (10GJ=0.258KL)	KL		b		11.1	c		6.9
原価換算原単位	kl/㎡				0.019			0.012
※赤字については、計算式								
【省エネルギー効果】	f		37.8	%	(b-d)/b			
	g		4.2	kl	b-c			
【電力削減効果】	j		38.4	%	i/(Ah-Bh)			
	i		16.6	千kWh	(Ah-Bh)-(Ch-Dh)			

① 省エネルギー量・率

導入前のエネルギー使用量	11.1kl	
区分の省エネルギー量	4.2kl	(内、裕度 空調 25%、フィルム 10%を考慮)
事業場全体の省エネルギー量	4.2kl	
事業場全体の省エネルギー率	37.8%	

② 電力削減量・率

導入前の電力使用量	43.2 千 kWh	
区分の省電力量	16.6kWh	(内、裕度 空調 25%、フィルム 10%を考慮)
事業場全体の省電力量	16.6kWh	
事業場全体の省電力率	38.4%	

平成 26 年 12 月 6 日（土）フィルム施工

フィルム効果：断熱性能、遮断性能 削減率（考慮）10%（特に夏に効果発揮）

：昼間の人工照明の消費電力を削減でき、省エネ、CO2 削減に有効な昼光照明設備です。



フィルム搬入



施工前



施工後（昼）



施工後（夜）



施工前



施工中



施工後（昼）



施工後（夜）

平成 26 年 12 月 20 日（土）～12 月 23 日（火）空調施工

空調効果：削減率（考慮）25%



デマンドモニタで電力消費の節電状況を表示

電力会社の取引計器に取付け、社内 LAN に接続するだけの簡単設置で、パソコンの画面に現在電力や電力消費の節電状況を表示することで、事務所内で目標達成度合いを共有し、節電の取組、CSR 活動のアピールをします。



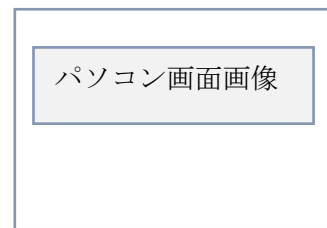
デマンドモニタ



デマンドモニター内部



LAN で接続



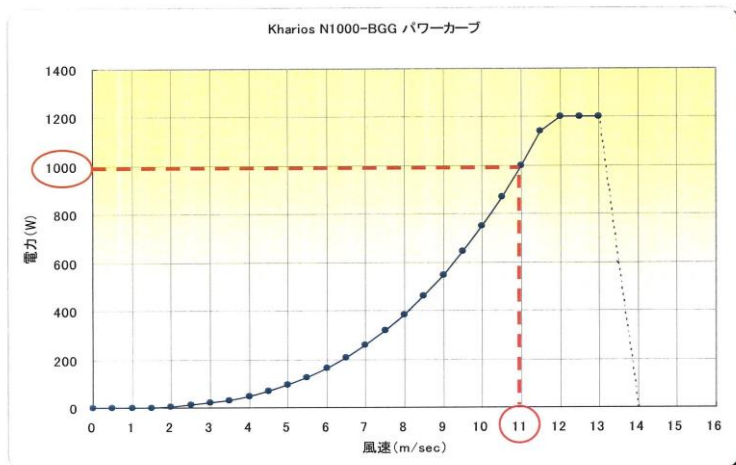
パソコン画面画像

パソコン画面で消費の節電確認

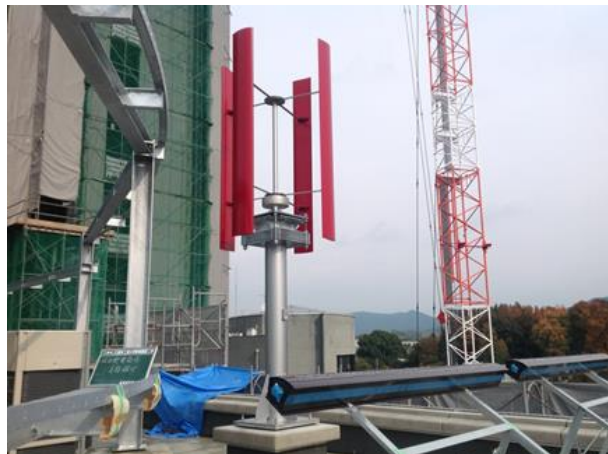
2) 風力発電への取組

温室効果ガスをほとんど排出しない発電方法である「風力発電」の普及に取り組みました。その結果、2013年に某工業大学より、小型風力発電機 Kharios N1000-BGG-SP の受注を受けました。実際の設置施工は12月になりましたが、環境経営活動の一環としてご報告します。

● 出力特性例



※ 定格風速以上の強風時においても電気ブレーキによる回転制御を行い、発電を継続します。
※ 出力曲線は、風洞及びフィールド試験値によるものであり、発電量は設置状況・風況により変化します。
※ 上記発電量は発電機端出力であり、制御装置からの出力ではありません。



Kharios N1000-BGG-SP (特注仕様)

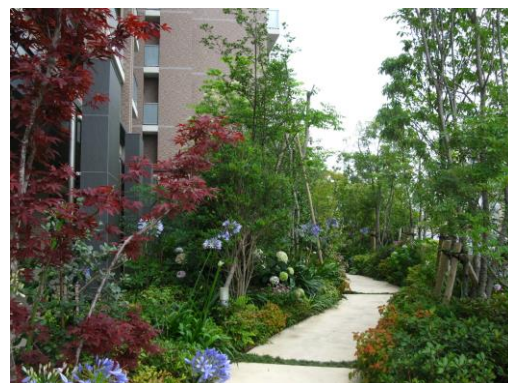
(機器仕様)

・風車サイズ：

柱高さ 2400mm×回転半径φ1500mm×羽の長さ 2500mm

定格出力 1000w (風速 11.0m/s)

風速計ブラケット付



12. 社会貢献

1) 自然教育

取組：本社（指定管理・グリーンピアなかがわ）

●「グリーンピアなかがわ いきもの観察会 2014」

「まほろば自然学校」共催

緑に関する私たちの事業が、人類のため社会の為に重要であることを発信していきたいと考えています。そのために、子供たちへの自然教育を実施しています。この取組を通じて緑地を造るだけの造園工事業から緑の空間を活用し、重要性を伝える、より社会性の高い事業に切り替えます。

第1回 平成26年4月20日(日) 春の九千部登山



第1回 雨天のため中止

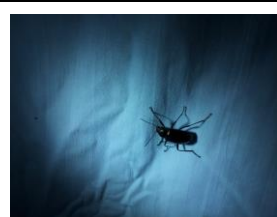
第2回 平成26年5月18日(日) 春の生き物観察会



第3回 平成26年6月15日(日) 生き物を知る 自然のものを使った工作



第4回 平成26年7月20日(日) ライトトラップ



第5回 平成26年8月17日(日) 夏の生き物観察会



第6回 平成26年9月21日(日) いきものウォークラリー



第7回 平成26年10月19日(日)
秋のいきもの観察会



第8回 平成26年11月2日(日)
秋の九千部山登山



秋の九千部登山は
雨天により中止

2) イベント・ボランティアの指導

取組：全事業所

●森林環境教育と苗木の植栽を行います

平成26年9月13日(土)

(社)福岡県造園業協会は20年度から五ヶ山ダム建設用地に広葉樹を植栽するボランティアを行っていましたが、いままで行っていた場所の工事が行われる事になったためにグリーンピアなかがわに誘致しました。グリーンピアなかがわのスタッフも事前の準備や当日の植え付け指導を務めています。



●カブトムシ捕獲大作戦(グリーンピアなかがわ)

平成26年8月2日・8月3日

森林資源の恵みを子供たちに身近に感じてもらうことと自然の中で遊ぶことの楽しさを感じてもらうこと目的に実施した企画です。このイベントの中で多くの社員がスタッフとして企画段階から材料準備、会場設営、進行、案内等に務めています。



●春の音楽祭と月夜とグッドミュージック

春の音楽祭平成26年5月24日(土)

夏の音楽祭平成26年7月12日(土)

福岡市郊外にある自然ゆたかな「グリーンピアなかがわ」で、春と夏のひとときを音楽で楽しみました。グリーンピアなかがわのスタッフが企画、事前の準備や当日の進行、案内等に務めています。



●学生のインターンシップの受入

平成26年6月27日

高校生、専門学校生の職場体験学習を受け入れ、働くことの大切さや喜びを感じてもらいます。

造園業の将来のため、学生の未来のために学生を支援します。



13. 地球温暖化の緩和、快適な環境づくり

1) 屋上緑化 壁面緑化

都市部における緑の創出を図り、雨・風・太陽・緑による自然をよび込み、自然という名のプレミアムを持った都市づくりを目指しています。

屋上緑化



屋上緑化



壁面緑化



2) 街並づくり・エクステリア

もっとも身近な緑として、くらしの空間へ運び届け、共に暮らせる空間づくりを立案、設計、施工を行っています。



3) ビオトープ

在来種（植物・生物）の保護と触れて遊べる空間を日常生活の身近なものとして復活させようとしています。



4) 集合住宅

そこに暮らす人々とその建築物に高い付加価値を与え、また周辺の景観を向上させる植栽を立案、設計、施工を行っています。



5) 緑地のメンテナンス

緑は生きています。そこに暮らす人々にきれいな花や葉を見せたり、照付ける日差しを和らげたり、やさしい風を運んだりする為には、緑が健全でなければいけません。健全な緑に健全な人々が集う。そんな空間を維持し続けることができるように取り組んでいます。



6) 指定管理者

福岡市 桧原運動公園・那珂川町 グリーンピアなかがわ



7) 運営管理

博多シティ庭園運営管理



8) 樹木の生産・販売

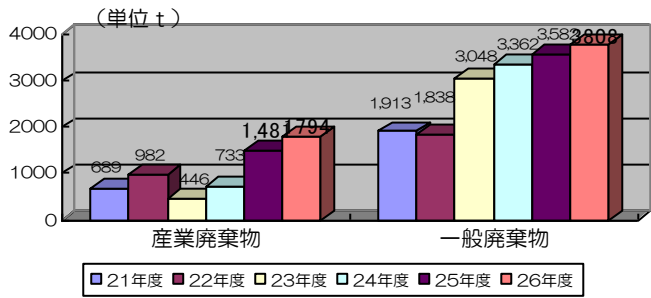
植木・苗木の生産地として全国的にも有名な田主丸で緑化樹木の生産・販売を行っています。圃場の見学会も行っており、お客様をご案内しております。



14. リサイクル事業（産業廃棄物・一般廃棄物）

産廃受託リサイクル事業の促進 取組：緑のリサイクルセンター
取組結果 実行の成果が受託量に反映されています。
評価

平成 24 年度の九州北部豪雨の災害復旧の受け入れが平成 25 年度から発生し過去最高になり受け入れ増加に合わせ、場内の重機および破碎機の活動量も比例しており、軽油使用量の増加に繋がっています。
毎日自主点検を行い、重機および破碎機の中を掃除して不要な物を詰まらせないようにすること。又早めに備品交換をする事により稼働時間に影響が出ないよう心がけています。



緑のリサイクルセンター



散防止の呼びかけ



産廃ボックス



破碎機



ふるい機



堆肥製造



収集運搬



破碎現場

受託した一般廃棄物及び産業廃棄物の処理量

処理方法		廃棄物等種類		処分方法等	処理量 ton
収集運搬		木くず・草			0.0
収集運搬量合計					0.0
中間処理	木くず・草		産業廃棄物		1,794.0
	木くず		一般廃棄物		3,808.0
うち再資源化等	木くず・草		破 碎		4,293.0
在 庫	木くず・草		(未処理)		309.0
中間処理合計					5,602.0
最終処分					0
最終処分合計					0
中間処理 後の産業 廃棄物	最終処分	P18 参照 4) 産廃ボックスの廃棄物搬出量			14.2
	再資源化等	木くず	チップ化		1,965.0
		木くず	チップ バイオマス燃料		1,635.0
		木くず・草	発酵 堆肥化		1,678.8
		再資源化等量小計			4,486.6
中間処理後処分量合計					5,293.0

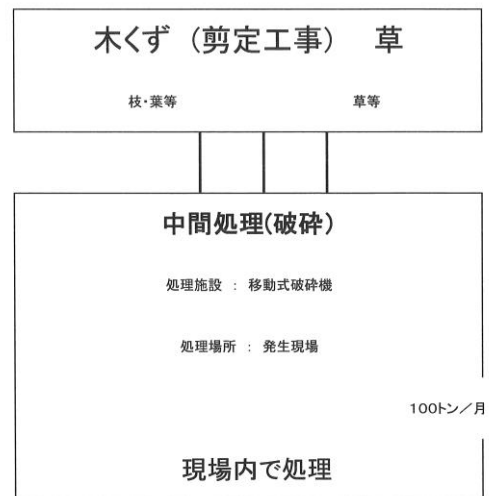
注：一般廃棄物・産業廃棄物の受入量合計は、5,602 t で中間処理の合計は 5,293 t です。
差額の 309 t は、破碎処理が出来なかった分です。

平成 27 年度 環境活動計画
・リサイクル製品の活用PR

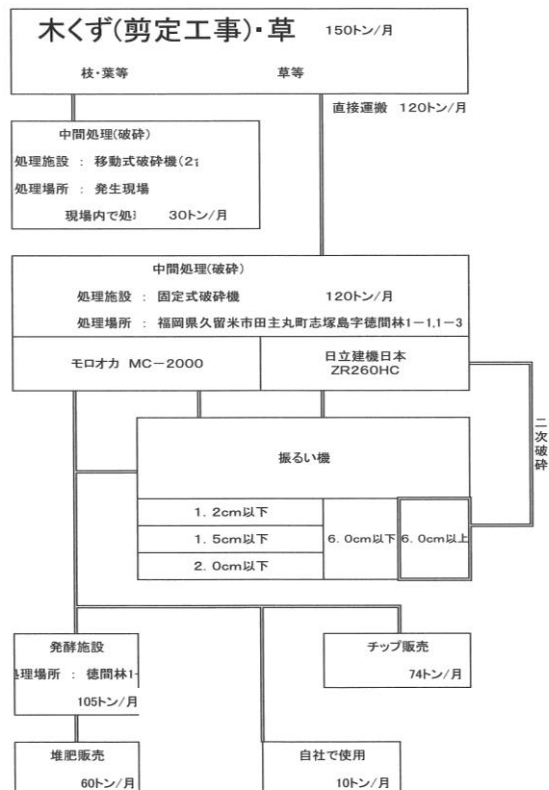
木くずのリサイクルセンター(工程)



木くずのリサイクルフローシート



木くずのリサイクルフローシート



木くずのリサイクルフローシート

